

第2次有田町総合計画（基本構想）策定に係るパブリックコメントの 意見と町の考え方

【意見】

私は有田の観光ガイドをしておりますが、第2次総合計画のなかでの、産業・観光部門における観光分野につきまして、これまでの9年間ほどのガイドをしてきたなかで、若干気づきましたことを述べさせて頂きたいと思います。産業振興・観光部門の基本目標に、「食と器で人があつまりつながるまち」とありますが、旧有田町と西有田町のそれぞれの産業を活かした町づくりとして、相互に連携をとり発展していくことを目指していると思われまます。合併後のこの10年間もどうそれらを統合していくか、それぞれの旧町民間の交流も含め模索がなされてきたかと思いますが、ガイドが関わる観光部門につきましては、必ずしも充分とは言えなかったのではないかとと思われまます。有田焼も含め肥前のやきものが日本遺産に認定されるまでに広域にその価値が認められる今日、例えば西有田在住の方が有田のやきもの、史跡、その歴史的価値等を十分に認識されているか。逆に、有田地区在住の方が西有田地区の魅力をも十分に語る事ができるか。現状としては、なかなか難しいように思われまます。主だった産業基盤が異なる町の合併では、やはりまずもって、合併後の自分の住む町の魅力をあらためて知ることから始めることが大事かと思われまます。10年以上の歴史をもつ有償の有田の観光ガイドは、これまで県外や国外のお客さまに有田の魅力を発信してまいりましたが、今後は町外の方はもちろん、ぜひ町内の方に、自らが住む有田の魅力を知って頂くのが大事のように感じまます。自らの町の魅力を再認識し好きになることが全ての第一歩ではないかと思うわけまます。

このため、機会があれば観光ガイドの案内で気軽に有田を見て回る学習会、研修会等が設けられないだろうかと思われまます。そういった機会があれば、我々ガイドも無償でご協力させて頂きたいと思うのです。一つの案として、たとえば新たに町議になられた方の研鑽の一つとして、或いは、新規に採用になられた町職員の初任者研修の一つとして、ガイドの研修をぜひ受けて頂ければと思われまます。自らの町を知り自らの町を本当に好きになる人がだんだんと増えれば、これからの10年、きっと有田の未来もより明るく広がって行くと思われまます。

それからもう一つ。有田町内には現在コミュニティバスが運行されておりますが、これらをご存知のとおり主として地元の方の足として利用され、残念ながら主として観光のお客様が利用するには利便性がそれほど良いとは言えまません。このため、出来ましたら町内の主な観光スポットをまわる有償のシャトルバスを新設できないかと思われまます。が、もし困難な場合には、現行で走っているコミュニティバスの一回の運行（周行）を観光客専用のバスに割り当て、それに観光ガイドが乗車し、車内で案内できるようにす

る。きっとそのバスの中では、それまで単に移送手段のひとつだったバスを、新たにおもてなしの心を醸成できる場へと変化させる事ができるのではないかと思います。もちろん、そのためにはそのバスの PR、積極的な町外へその情報の発信が大切なのは言うまでもありません。

以上 2 点を現役ガイドとしてご提案したいと思います。

【町の考え方（修正なし）】

日ごろから観光ガイドとして、有田町の観光振興の最前線において活動していただいておりますことに心から感謝申し上げます。

さて、第 2 次有田町総合計画基本構想案にもありますとおり、食（農畜産物）と器（有田焼）が融合した産業の活性化と交流人口の増加を目指すためには、次の 100 年のために住民間の交流をさらに深め、町の一体性を確保することが重要な要素になると考えております。その上で、通年観光の実現を目指し、地域資源をさらに磨き上げるとともに、おもてなしの心を醸成していきます。そのために、「町民みんながガイド」として、有田町の歴史や文化、伝統などに関する知識を深め、町への愛着を深めていただきたいと思います。

そのために、具体的には基本計画を策定する中で、観光ガイドを活用した学習や研修及び旧町間の融和の機会について検討していきます。

また、観光振興において、観光客の町内での移動手段をどう確保していくかについても、公共交通全体のあり方を検討する中で、議論していきます。コミュニティバスの運行における観光客の取り込みや利便性の向上についても、重要な施策として、行政の縦割りを排する形で検討していきます。